

DVD 盤面

「公害被害体験を語り継ぐ」
 制作 大阪人権博物館
 DVD VIDEO 【6分】
 環境省請負業務「平成20年度大気汚染経験情報発信事業」
 財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）

時間	映像	字幕	
		たて字幕	よこ字幕
00:00	国道2号線 財団の外 観 事務所の 様子	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪市西淀川区には地域の再生とまちづくりを目的として設立された財団法人公害地域再生センター「あおぞら財団」があります ・財団では、環境学習をはじめ西淀川公害患者とその家族そして裁判闘争など運動の関係者から収集した資料を整理しこまかな目録づくりをすすめています 	
00:30	財団の書 庫 整理され た資料群 （事務所 を訪ねる 辰巳さん）	<ul style="list-style-type: none"> ・機関誌やさまざまな刊行物、公害被害に関するシンポジウムの開催、定例学習会の開催など、設立当初から盛りだくさんの事業内容で、幅広い活動をおこなっています ・あおぞら財団は、西淀川公害患者と家族の会の事務所とも軒を同じくしていて、患者会の会員とも交流を深めています。 ・西淀川公害患者と家族の会事務局長の辰巳致さんです。 	
01:00	辰巳さん の証言 （鎗山さ んの作業）	<p>【財団ができた意義は？】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業と解決して、和解したあとに財団が出来たわけですけど、やっぱり、あおぞら財団があるということで、もっと新しい施策をどんどん出していけるし、やっぱり、患者さんも将来的に、今後そういう先進的なものを、どんどん出していけるという意味では、すごく安心できたというかね 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・あと、10年、20年、30年、公害運動がずっと例えば、最後なくなったとしても、その歴史が資料に残るといのはすごく大事なことで、それが、財団が積極的に取り組んでいるということは、ものすごく大事なことじゃないのかなと ・財団を作るときに、患者さんがいつも私たちの夢を、私たちが死んだ後も財団があることによって夢を託せるんだという夢、その夢というのは何かを、考えていくと患者会運動ではできなかった施策を提案してくれたりとか、それを西淀川だけではなくてどんどん世界に発信できるそういう財団であってほしいなと思います。 	
02:00	大野川緑陰道路の外観 かつての大野川	<ul style="list-style-type: none"> ・あおぞら財団のすぐそばを、西淀川区大気汚染緊急対策によって、きれいに整備された大野川緑陰道路が通っています。 ・かつての大野川は工場排水によって、ヘドロが湧き、悪臭を放っていました。 ・それは西淀川公害の象徴のような存在でした。 ・かつての大野川をよく知る北村ヨシエさんです。 	汚染された大野川（1970年代）
02:20	北村さんの証言 （かつての大野川）	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和12年（1937年）位に学校卒業してね、あの道を歌島まで来てたことがありますねん、仕事に。 ・そのときは、ここの川なんかね、きれいな川だったしね。 ・私たちのおばあさんの時には、この大野川で泳いだと言っていました。 ・それが、いつのまにか、ヘドロになって、何にもわからん泥ばかり ・そんな中で、ちょうど昭和35年か40年（1960年か65年）位から、学校で（子どもが）病気みたいになって、咳はでるし。私たち（夫婦）二人がね、困ったことやな。だけど子どもは小 	かつては漁もできた大野川（1950年代）

		<p>さいし、働かなあかんし</p> <p>・こういう活動・運動がなかったら、生きなあかんし、情けないし、そんな元気に今までいられないと思う</p> <p>・今でも花見に行きますわな…その時には皆、運動の結果、いい緑陰道路を作ってくれはった…。あのままの川だったら、どうなっているだろう…西淀川の場所としては一番いいところだわね</p>	<p>春には桜が満開になる大野川緑陰道路（提供 大阪市）</p>
03:00	<p>YMCA 高校での授業 （榎峰さん）</p>	<p>・被害の歴史を記憶して自らの体験を語り、新たな時代の課題に向きあう営みをはじめた人たちがいます</p> <p>・公害被害者のうち幾人かは、校生や地域の人々に、公害被害の実態を語り継ぐ語り部の活動を続けています。</p>	<p>大阪 YMCA 学院高校 榎峯よし子さん 和田美頭子さん</p>
03:20	<p>西淀川高校での授業 （岡崎さん、和田さん）</p>		
03:50	<p>岡崎さんの証言 （西淀川高校での授業）</p>	<p>【「語り部」活動をやっていてどうか？】</p> <p>・楽しいです。色んな質問が返ってくるのが一番楽しいです。本を見たけどわからない。やっぱり直接聞いて苦しんでいる時の表情なんか、ちょっとは想像できるかなという、そういう話で、しゃべってて良かったかなというのがあります</p> <p>・一番苦しんできた人たちは、みんな大概が亡くなって行って、こうやってしゃべっていてもちゃんと解ってくれているか、どうやって伝えていったらいいかと思いつつ、そういう語り部の依頼が来た時には行くようにしていますのですけれど。今のところそれしか無いのかなと思ったり</p>	<p>岡崎久女さん</p>

		【将来の夢は？】 ・何か本なんかを作りたいなとかは、自分では思ってるんですが。	
04:50	講演の様子 (YMCA 高校での 授業)	・被害体験を語り継ぐことによって、世代を超えた多くの人に、公害被害が記憶され、反公害の思想が着実にひろまっています	
05:00	終了		

エンドクレジット

<p>協力</p> <p>岡崎久女 北村ヨシエ 辰巳致 槇峯よし子 森脇君雄 鎗山善理子 和田美頭子 (財) 公害地域再生センター 西淀川公害患者と家族の会 YMCA 学院高等学校 (50 音順・敬称略)</p> <p>制作 大阪人権博物館</p> <p>制作年度 映像：2005 年 (平成 17 年) 中国語字幕：2009 年 (平成 21 年)</p> <p>中国語翻訳 櫻井次郎氏、高 娜氏 字幕編集協力 株式会社ダイメディア</p> <p>環境省請負業務「平成 20 年度大気汚染経験情報発信事業」 財団法人公害地域再生センター (あおぞら財団)</p>
--